

私は今夏、全国でも一番に高齢化が進んでおり且つ社会福祉事業に力を入れている地域である藤里町に3日間程滞在しました。藤里町に訪れたのはこれが二回目であり、初めて訪問したのは今年の二月でした。その時は主に一人暮らしの高齢者の方々が住まわれている家の除雪ボランティアとして行かせていただいて雪かきの大変さを実感しましたし藤里の社協が主催の「小さな町で輝く社協の学ぶ福祉研修」に参加させていただいて藤里の現状課題やそれに対する取り組みを知ることができました。

藤里町に訪問して1日目に地域の方々とバレーボール交流試合を行い、結果はぼろ負けでしたがバレーのトスの仕方やアタックのコツなど手とり足とり教えてくださったり少しの休憩の間に雑談ができた或少しの時間で仲が深まったのでいい体験だったと感じました。バレーボールの後は高齢者の支援ハウスぶなっちに訪問させていただきその利用者さんとお話しをして和やかな気持ちになりました。そのあとに社協のほうで1時間ほど勉強会を開いてくださり年々増加する秋田の高齢化率やそれに伴う一人暮らしの高齢者の方やひきこもりの方の増加が現状課題としてあることを知りました。私たちの想像している「ひきこもり」は暗い、対人関係が乏しい、部屋で暴れる人がいるかもしれないというようなイメージを持っているが引きこもりの方のほとんどは就労できそうな仕事がなく、決して好きで家に引きこもっているわけではなく過去に外出した時に対人関係等の悲しい出来事やつらい出来事に遭遇しそれがきっかけで外の世界に恐怖心を抱いて外に出たいが我慢して引きこもってしまっているという理由やまた引きこもり家庭の中でも家族が人の訪問を控えさせたりしている理由など様々な過去の事情を抱えた人たちがほとんどであり、そのような方に社協の活動を知ってもらい参加することで引きこもりを脱却できるようにお宅の見回りや訪問活動を行っていることや生活支援ハウスぶなっちの存在や、引きこもりの方や障害者の方が正規の仕事に就けるよう社会復帰のための支援を行っているこみっと、地域の人たちから手伝ってほしいところにひきこもりの方や障害者の方などを派遣し派遣される側でも安心して働けるように社協の方が中間に入り、メンタル面を含めたサポートを展開させたこみっとバンクの存在、社会福祉を学び、福祉関係の仕事に就労をしたい学生等のサポートとして実際の介護の現場で実習を積み重ねたり地域の方との交流を行ったりしながら福祉資格を取れる制度であるこみっと登録制度の存在など様々な事業を展開しており、こうした藤里の取り組みは27年度から開始される生活困窮者支援事業や介護保険見直し事業、児童支援策の先駆けとして似たような役割を果たしており、全国で35の国体の方々の訪問や視察の実施や、また前局長の菊池さんによって事例発表を講演し藤里の取り組みが広められており、それらの活動をさらに充実させ、実際に引きこもっている方たち一人一人と関わることでその方たちそれぞれの素な感情、表情を知ってそれによって自分たちが持つ引きこもりに対する固定概念を変え、その方たちへの支援や活用によって町づくりの発展に貢献させたいという局長の菊地さんのお話を聞き、前回の訪問で実際にぶなっちへの訪問、自立生活支援施設であるくまげら館やこみっとを見学させていただいたことがあったので改めて社会福祉事業に力を入れる思いを強く感じる事ができたので、1時間という少しの時間でとても濃いお話を聞けたと思います。

2日目には二班に分かれてそれぞれ一人暮らしをしている高齢者の方へのお宅訪問をし、私は伊藤さんという方のお宅に伺いました。伊藤さんのお宅は大きな窓がいくつかあり風の通りがよく居心地がいい場所でした。伊藤さんは生まれてからずっと秋田に住んでおり今の藤里の高齢化や若者の都会進出による人口の減少でこれからの将来の藤里を心配されていました。少し秋田弁で話され

ていたのでところどころ話の内容が分からない部分もあり戸惑いましたが藤里の町や人の良さを語ってくださり、雑談をするなど和やかな時を過ごせたのかなと思っています。一昨年の冬に雪かきにきた大学生との写真や色紙を大切にしており、私たちのような若者たちが毎年冬にきてくれることを町の人々は歓迎していていつも楽しみにしていると言ってくれたのがとても嬉しく、自分の地元以外の場所で毎年この大学生たちによる訪問活動を楽しみにして下さっている人がいてすごい町に恵まれているなど感じさせられました。午後には元気の源さんクラブの皆さんと午前には源さんクラブの方が作って下さった手作りのカルピスのゼリーを食べながらお話をし交流を深めました。源さんクラブは藤里に住む高齢者でも元気な方が集まり、介護予防事業として展開されており週に1回開かれている事業です。お話しした何人かの源さんクラブの方が二月に1回来た私のことを覚えて下さっていて二月に訪問した時に行った都道府県ビンゴ大会の話や傘を使った玉入れの思い出話で盛り上がり、源さんクラブでの訪問での最初と最後で歌謡曲である「二人は若い」を軽い振りをつけながら源さんの人たちと一緒に歌ってとても喜んでいたのでわたしも源さんの人たちに元気をもらえて有意義な時間を過ごせたと感じました。

3日目にはケヤキの館という場所で地域の方と一緒にそば打ち体験をし、二月に訪れたときに雪下ろしコーディネーターと一緒に雪かきをした方が今回はそば打ちの仕方を教えてくれました。そば粉から水を少しずつ加えながらそばを作っていくのは初めての体験でしたし地域の方々、看護福祉大学の人たちでそれぞれ3グループに分かれて同じグループになった地域の方々とそばの生地をつくるまでプチ競争をしたり住んでいるところを聞いたりなど雑談をしながら生地をこねたり細く切ったりし地域の人たちと協力し合っってそばをつくることができたので、地域の方との心の距離も縮められた気がしましたし、初めてのそば打ちを藤里の地域住民の方たちと一緒に作ることができ、新鮮な体験でした。その後社協とつながっているデイサービスに訪問させていただき、そこで感じたことは私がふだんボランティアで行かせていただいている特養やデイの施設より規模が大きく職員さんの待機場所と利用者さんと同じ空間となっており、窓が大きく外の光が多く入っているなど秋田と東京の施設のちがいを感じました。

三日間を振り返ってみて、藤里という町は人と人とのつながりが深く、一人暮らしの高齢者でも源さんクラブの方でも地域の人たちでも社協の方でもそれぞれみんなが顔なじみであり近所同士の付き合いも当たり前で、都会にはない人の温かさを感じることができました。

今まで若い方たちが一生懸命力を注いで研修に行き続け社協の方々や地域に住む住民との信頼が積み重なってきたので今日まで若者と藤里が関係を保ってきて、これからも藤里の方とのつながりのネットワークを広げていき良い人たちや自然に恵まれたこの地域とのつながりを大切にしていきたいと感じました。来年の冬に藤里に訪れたときは去年の自分よりもさらに成長するものになればいいと思っています。